'79 5
No. 84
昭和54年5月10日発行
発行 横越村役場

広報よこごし

おもな内容

1. 子どもの幸せを考える年 (1P)
2. 統一地方選挙 (2P)
3. 退任の挨拶 (2P)
4. 村長就任のあいさつ (3P)
5. 私のみた中国 (3P)
6. 村のこれからの社会教育 (4P)
7. 村の税条例改正 (4P)

盆栽シリーズ ④ けやき (木津上 加藤正喜氏所有)

国際児童年1979

子どもの幸せを考える年
児童福祉週間 5月5日～11日

今年は国際児童年の年でもあります。国連で、児童権利宣言が採択されてから、ちょうど二十年目にあたります。これを記念して、子供は民族の宝、世界の宝、という認識のもとに、子供たちの幸せについて皆で考えようという年なのです。この機会にわたしたちは子供たちの世界を直視し、そのありのままの姿を理解するとともに新しい親子関係のあり方を見いだしたいものです。

心配ごと・悩み
勉強・進学・将来のこと

子供たちは、日ごろどんなことで悩んだり、心配したりしているのでしょうか。

子供たちの胸を痛める〝三大悩み〟とでもいうべき心配ごとは、一に「勉強のこと」二に「進学（受験）のこと」三に「自分の将来のこと」となっています。

これを学年別に見ますと、「いま困ったり、心配していることは何か」との問いに、小学校五、六年生では二二％が「勉強のこと」をあげ、中学生では四五％が「進学（受験）」と答えています。

これらに次ぐ〝悩み〟として小学生は「自分の将来」（一五％）「進学（受験）のこと」（一三％）をあげています。これが、中学生になりますと「勉強」三九％、「自分の将来」二八％と、それぞれパーセンテージが高くなり、三大悩み、は高学年になればなるほど深刻になっている様子がうかがえます。

ちなみに、中学三年生では約七割が「進学（受験）」問題で頭を痛めています。

このほかでは、小、中学生を合わせた全体で「おこづかいのこと」の二〇％に次いで「友だちのこと」「健康のこと」がそれぞれ一三％と続き「父、母のこと」（八％）は七番目にやっと顔を出しています。（昨年、総理府が全国の小学五、六年生と中学生を対象に行った世論調査から）

将来の暮らし方
「趣味にあった生活」を

子供たちは、大人になったらどんな暮らしをしたいと思っているのでしょうか。

男女とも「趣味にあった暮らしをしたい」が最も多く、三割を占めています。次いで「金持ちでなくても清く正しく暮らしたい」二三％、「社会のためになるようなことをして暮らしたい」二〇％などとなっており、「金持ちになりたい」（七％）、「有名になりたい」（五％）は、ぐっと少なくなっています。

男女別では、「いい人と結婚して楽しく暮らしたい」が男子五％なのに対し、女子はその四倍近い一八％と、大きなちがいを見せています。逆に「金持ちになりたい」では女子が四％ですが、男子は一〇％と多くなっています。

校だより

真新しいランドセルも板につき、元気で登校する可愛いい小学一年生。学生服の胸に名札をつけて「小学生と違うのだ。」と胸を張っている中学校の一年生も、そろ〳〵学校に慣れて家庭の方々もホッとしておられる事と思います。

入学式の来賓祝辞の中に「学校は学問を教える場所であるが、教育のすべてを教え込む事は無理なので御家庭の方々にも御協力を願い度い。」と、云われた。その中には、環境の保護と保全に於いて責任ある行動をしていたゞき度いと云う事をお願いしているのだと私なりに受け取った。

環境教育は学校教育と同様非常に大切である事はいまさら云うまでもない事である。それは、まず家庭生活から始まるからである。家庭こそ、子供の道徳教育の場であり、生活指導の場所でもある。そして、環境の美化保全に一生懸命に尽す事を教育する先生は家族であると思う。子供は毎日先生（家族）と一緒であり、先生の行動を見ながら環境に対する責任ある行動を身につけ様と勉強している。地域社会の番所が環境教育の重要な学校であると思う。ある人が「人間が自己を取りまく環境を保護し、その美化に全力を尽す事は他人まかせの問題でなく、自分自身の行動を規制してゆく事から出発する」と云われた言葉を忘れてはいけない。子供達も学校に慣れて元気で通学している姿を見るとより一層村民一人一人が家庭に於いても、村内に於いても、又、村外でも立派な環境教育の先生である事を自覚し、そして、どの角度から見られても恥しくない指導者になる様に努力しなければと思う。学校と地域が一体となれば、必ず子供等は立派に成長する。お互いに切磋琢磨して子供達の将来を暖い目で見守っていたゞき度い。（山崎）